



一人でも多くの かけがえのない 命を守るために。

救命救急センターの躍進

第三次救急医療機関として、また地域に一番適した救急集中治療を提供するため、救命医療で屈指の公立豊岡病院但馬救命救急センターから着任された小林誠人先生を中心に、ドクターやメディカルスタッフが一つとなり共に救命医療のさらなる躍進に向け歩き出しました。

当院の特色として鳥取県東部地域と兵庫県北部の但馬地域と医療連携がおこなわれております。この度、救急集中治療の専門医が加わることで指令塔となり、他科の医師との協力体制はこれまで以上に強まり連携がスムーズになりました。それにより、救急集中治療の質が向上することはもちろん、患者さんに救命集中治療から一般的な治療へと一貫した質の高い医療を提供することがより可能となりました。さらには、医療連携により地方でも都心に並ぶ、圧倒的に質の高い救急集中治療の提供を目指しております。



今後も、患者さんに一番適した救急集中治療を提供しこの地域で皆さまが安心して生活できるよう、尽力してまいります。

※第三次救急医療機関とは、24時間体制で重症・重篤な救急患者を受け入れる病院であるとともに、救急医療の教育機関としての役割も担っている医療機関。

中国地方
唯一!

国立がん研究センター認定!

がん相談支援センターとして認定を取得

2020年1月1日、当院がん相談支援センターは「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」に認定されました。これは、全国に400ヶ所以上設置されているがん診療連携拠点病院の中でも、支援サービスの質を維持・向上させていくための体制整備に努めるなど、一定の基準を満たした場合にのみ認定され、全国で20施設目、中国地方では唯一の認定となります。

がん相談支援センターは、料金は無料となっております。当院での療養歴のない方や匿名でのご相談など、どなたでも安心して相談できる体制を整えております。相談方法は、対面や電話を中心に行っており、一般的ながんの相談に加えて、若年がん患者世代への支援、がんゲノム医療などへの相談も対応しております。お気軽にご相談ください。



体にやさしい最新の心臓治療

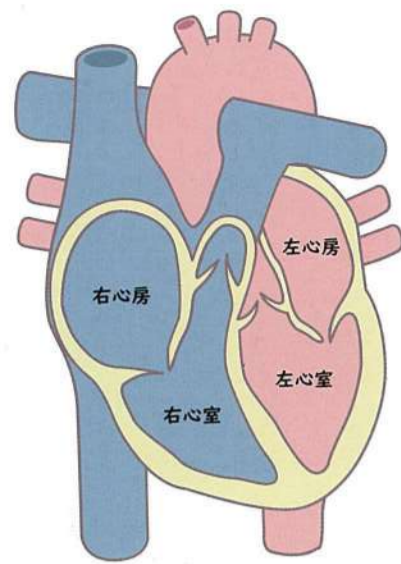
「心房細動に対するクライオアブレーション治療」



心臓内科 菅敏光

心房細動とは？

心臓は四つの部屋に分かれ、上の方の二つの部屋を心房、下の二つの部屋を心室といいます。四つの部屋の壁は筋肉でできており、中は空洞になっていて血液がたまっています。筋肉が収縮すると中にある血液が心臓の外に出て行くようになっていきますので、心臓は血液を送り出すポンプであるともいえます。心房細動とは、本来一定のリズムで動く心房が、リズムを崩し規則正しい心房の収縮ができなくなる病気です。動悸や胸の違和感などの原因となり、心不全になってしまうこともあります。心房内の血液の流れがよどむため、血栓ができやすくなり、脳梗塞の原因にもなります。



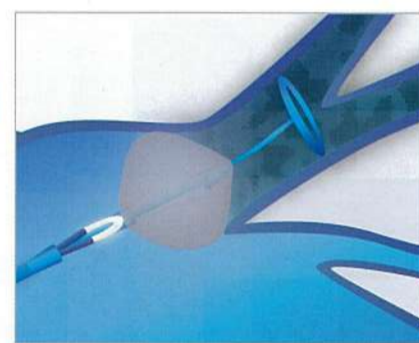
心房細動の主な原因は肺静脈からの異常な電気信号によるものです。アブレーション治療とは異常な電気信号を遮断する治療法で、高周波アブレーションと最新のクライオアブレーションがあります。

クライオアブレーション治療とは

クライオアブレーションは、4本の肺静脈を1本ずつ30mm程の大きさの風船（クライオバルーン）を膨らませ冷凍凝固することで、心房細動を起こす異常な電気信号を遮断し、再び心房細動が起こらないようにします。高周波アブレーションよりも1時間以上治療時間が短く、さらには脳梗塞などの合併症率もこれまで以上に低くなるなど有効かつ体に優しい治療法です。当院では、患者様に寄り添い安全で安心な治療法を提供してまいります。



1. 診断カテーテルを肺静脈に留置



2. 肺静脈をバルーンで閉塞し、冷凍アブレーション開始（3～4分間）

直腸がんのロボット手術が保険診療で可能に！



あしだ 蘆田 啓吾
消化器外科

当院では、身体への負担が少ない手術支援ロボット「ダビンチXi」による手術を積極的に取り入れています。この4月に、ロボット手術では国内屈指の実績を誇る藤田医科大学病院で活躍していた蘆田啓吾医師が赴任致しました。それに伴い、当院にて『直腸がん』のロボット手術が保険診療で行えるようになりました。



こどもを知り尽くしたプロフェッショナル！ 小児外科開設



小児外科 黒田 征加

一般的に小児外科では、消化器疾患、呼吸器疾患、泌尿器疾患、一部の頭頸部や皮膚の疾患などを診療して、原則として0～15歳のお子さんを対象としております。当院では、生まれ持った疾患や、成長前の身体の未熟さゆえに発生してしまう疾患をはじめとし、どの子もその子らしくこの地で安心して成長できることを願い、4月より新たに常勤医が赴任致しました。

県立中央病院を支えるスタッフ メディカルアシスタント ～スムーズな診療のために～

vol. 03



MA 有松千尋

今回はメディカルアシスタント（MA）についてご紹介します。診察室に入ると、医師の隣で制服姿のスタッフがいるのをご存知ですか？そのスタッフをメディカルアシスタント（MA）といいます。これまで医師が行ってきた診断書や紹介状など医療文書の作成をはじめとした事務的作業を医師の指示に従い行なっています。医師が診察に専念できる環境づくりを行い、「医療現場の質の向上」に貢献する重要な役割を担っているんですね。